



空色ボグライ



カラオケ

一騎

すまないが
いつものを頼む…

皆城くん!?



どうして…

一騎さんと
一緒にやないの



遠見
どういふ事だ
一騎は…

来てないの

家に電話したけど
留守で…

無断で休むことなんか
今までなかったのに



…悪い遠見

皆城くん
本当は何か
知ってるんじゃないの？

一騎を見つけたら
必ず連絡を
入れさせる

あとの事は
任せた

あっ！
ちよつとお

僕の不注意だ

一騎をひとりに
させてしまった

こうなることは
予測できたのに

昨日……

あと5年……ですか



一騎にはもう…

ええ…先程
告知したわ

真壁指令に
同席してもらって

そうですか…

それが一騎の
残された時間



治療法は必ず
見つけてみせるわ

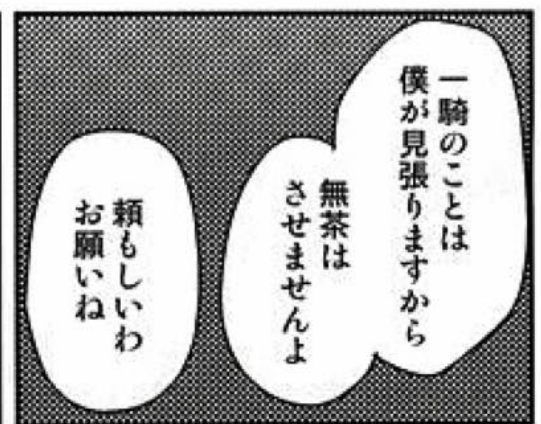
総士くんには
お願いしたいのは

一騎くんの様子を
気にかけてあげて
欲しいの

あなたが帰ってきて
今は安定している
けれど…

一時期とても
不安定だった
ことがあって

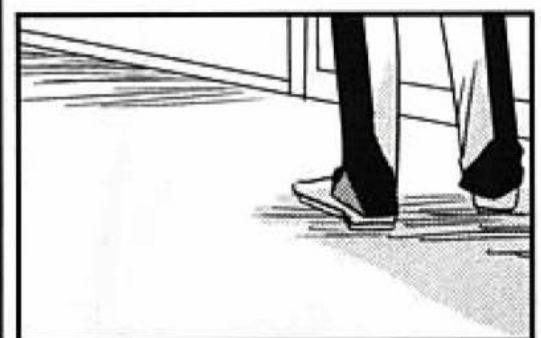
…
分かってる
つもりです



一騎のことは
僕が見張りますから

無茶は
させませんよ

頼もしいわ
お願いね



カツ

カツ



ニノツ



…総士!





だめだ

今日くらい
家へ帰れ

なんてだよ



かずき...

ちよっと
興奮するだろ?



ほら

久しぶりに
制服着たから

このままだいたい





求められるまま
体を重ねた



翌朝

目覚めた時
一騎はそこに
いなかった



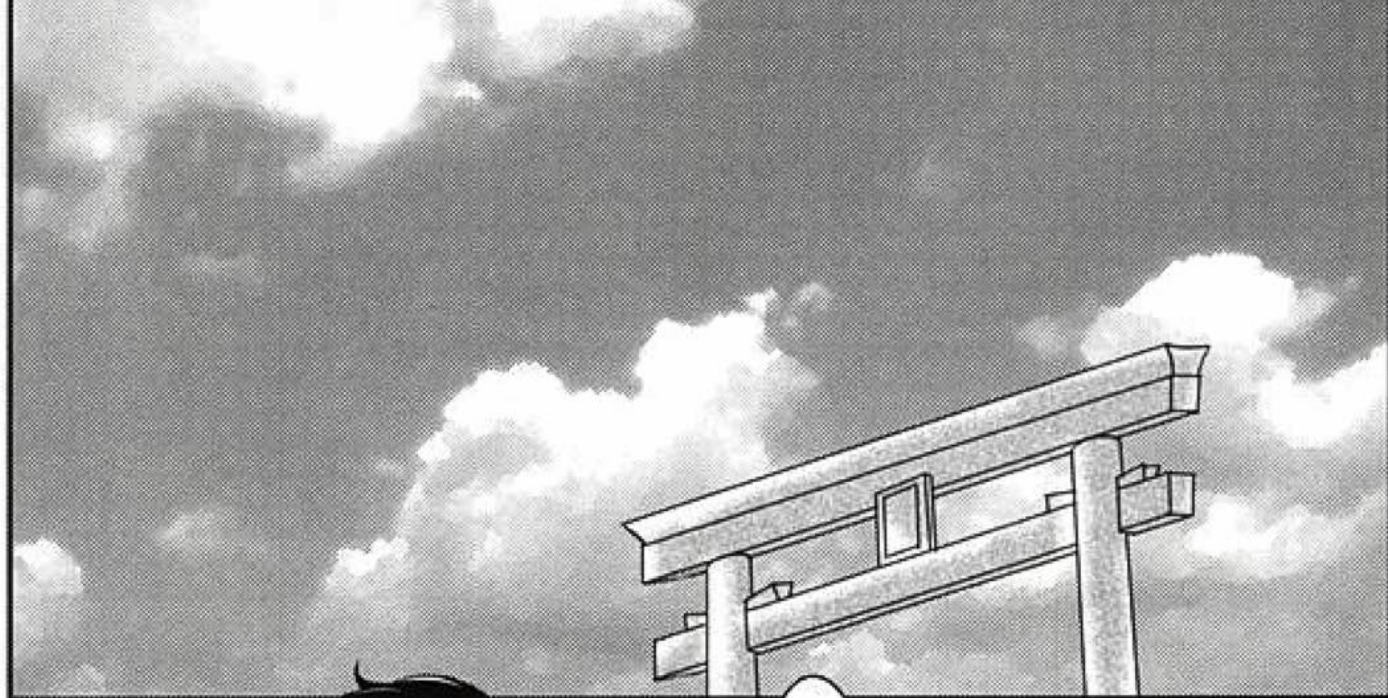
一騎



どうして
平気だと思った

楽園にいることが
当たり前だと





昔よくここで
遊んでたなって



懐かしくなって



…ちっとも
隠れられてない
ですけど

そうか？

はい

これじゃすぐに
見つかっちゃいます



見つけて欲しいん
ですね

…というより



そんなこと
ないです

私なら
嬉しいと思います

総士先輩も
きつとそう



…すごい
ガキっぽいこと
してるよな





頼られると
嬉しくなって

なんでも
してあげたく
なっちゃいます



総士のこと
そんなふう
に
言われたの

初めてだ

おほほッ



笑わなくても
いいじゃない
ですか!

なっ



.....あ

噂をすれば





ああ

……行くぞ



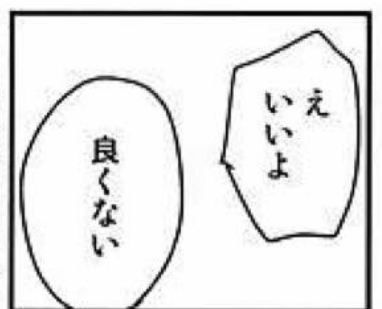
海から吹き込む
秋風が

今だけ
止まって欲しいと



握った一騎の
手のひらは

少しだけ
冷たくて





そんな顔で
店には立てない
だろう

…なんでだよ!

あとでフォローを
入れておくから
心配するな



総士

答えてくれ



力が必要に
なったときは

もし
この先…
また島が敵に
襲われたりして



俺を
使ってくれるか



総士

お前は
狡い



…心配するな

従順なだけでなく
己の望む答えへ
僕を誘導するのだ

昔から
変わらない

答えを僕に
委ねて



ザインは
凍結させない

あれに代わる戦力を
持ち得ない以上

いざとなれば
お前を使う



…そっか



満足か？
一騎

僕の口から
望む言葉を
引き出せて

総士に必要と
されなくなったら
どうしようって

それだけが
怖かったから











ん、平気だ…
そのまま

昨日の今日
だからな

…まだ
やわらかい

あ、
そうし



ゆび
奥まで…

…ああっ

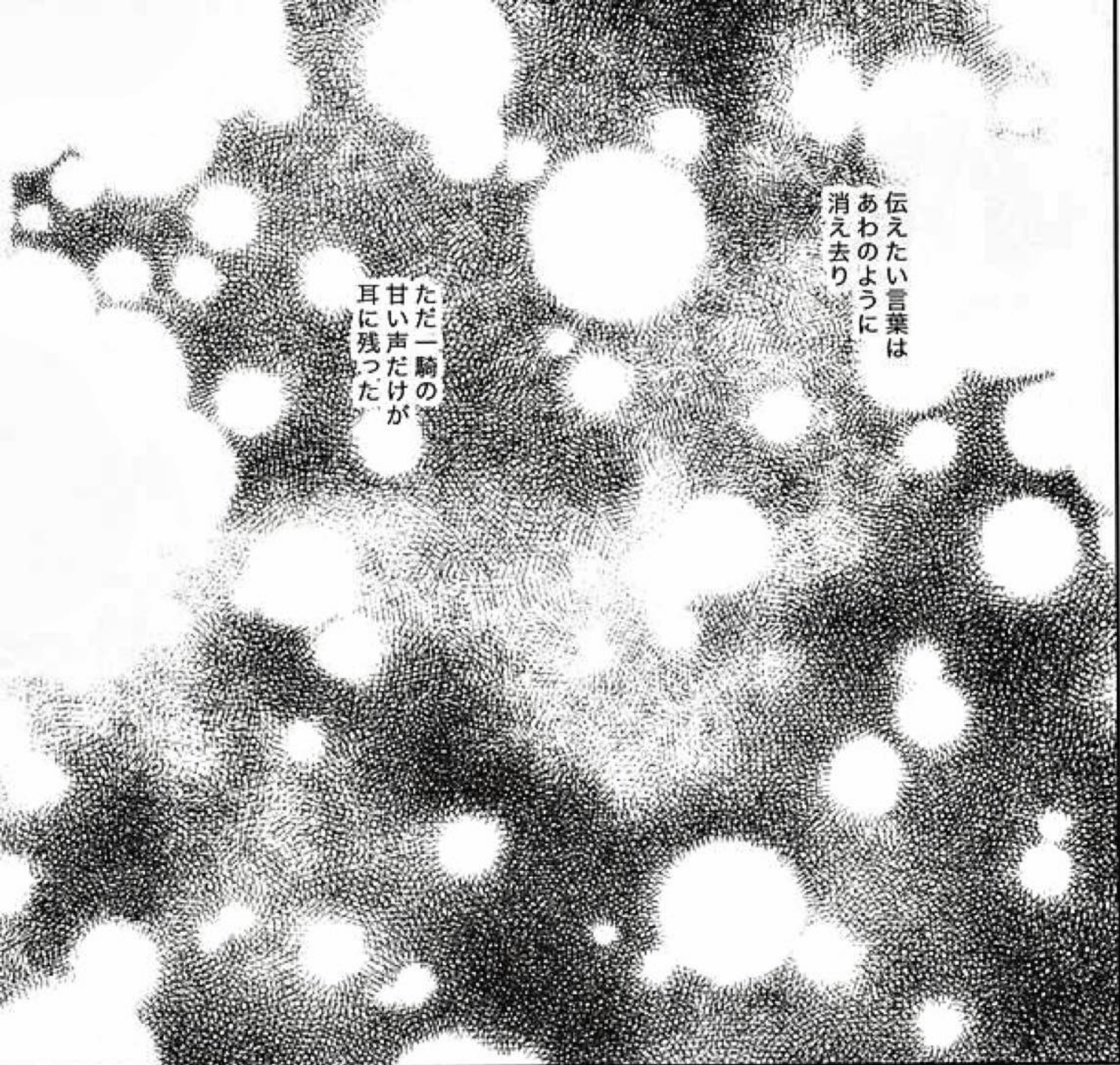


声
思ったより
響くな



それ、
だめ…

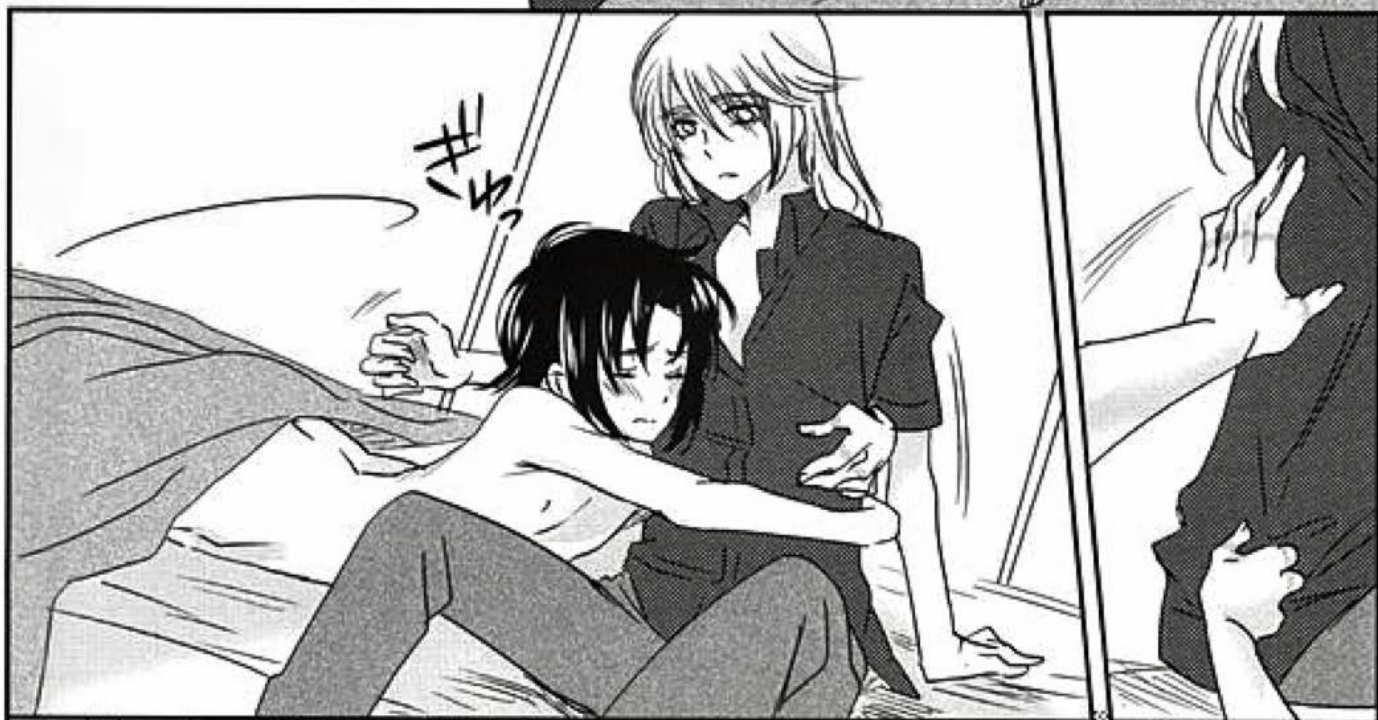




伝えたい言葉は
あわのように
消え去り

ただ一騎の
甘い声だけが
耳に残った







…一度
家へ帰るか？



…いま何時だ？

19時半過ぎだ

変な時間に
寝たからな



…総士は俺が

帰っても
いいのか…？



ああ



今度は
どんな答えを
期待している

一騎

たとえば僕が



この首に

鎖を繋いで

ずっとここへ
閉じ込めて
しまいたいと
言えば

お前は
どうするだろう



いや
何でもない

お前はここに
いてくれ

総士
出掛けるのか？



どうしたんだ
総士…？

はッ

食事を
調達してくる

さすがに朝から
何も食わずにいて
腹が減った

そ、そうか
ごめん…!

俺が食堂借りて
何か作るよ

いや、いい
お前はここにいろ

目の腫れと
発熱が
収まるまでは

部屋から
一步も出るな

あとさつさと
服を着ておけ!

…はい



早いな総士

…さっさとさー

カラン
カラン



ああ頼む

まかないで
いいか？

何気ない
この瞬間も
砂のように
零れ落ちてゆく
残された時間



ただ生きることを
選べないのなら

理由などいくらでも
与えてやるう



僕は今
此処にいる

いつか選択すべき
未来のために



FAFNAR FAN BOOK
SOUSHI×KAZUKI VOL.3
BY YURARIBIYORI
2015/JUNE